

めざせ世界大会 ロボカップ開幕

飯塚・若松などで熱戦

先端技術を駆使したロボットがサッカーやレスキュー技術を競う「ロボカップ」が4日、飯塚市の九州工業大学情報工学部をメイン会場に県内2会場と新潟県の計3会場で始まった。海外も含む計64チームが参加し、6日まで。

北九州市若松区の会場では、1チーム5台のロボットがサッカーで戦う「中型ロボカップリーグ」に、7連覇がかかる九州工大と日本文理大学(大分市)の合同チームが出場した。

縦18センチ、横12センチのフィールド内を、高さ80センチのロボットが動き回る。人工知能が搭載されたロボットが人間の操作なしにパスやシュートを繰り返し、相手ゴール



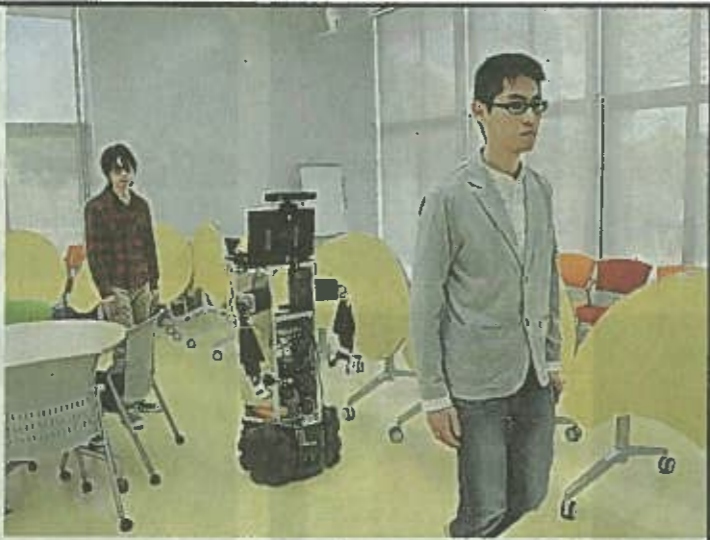
フィールドを動いてボールを奪い合うロボット。北九州市若松区

ルを目指す。

両大学は2年前から開発・調整を続ける新型のロボット2台を投入した。東京や愛知、石川の3都県の大大会を相手に3戦3勝し、7月にブラジルで開かれる世界大会出場に向けて好発進した。

中型ロボットの世界大会代表は、今大会の成績や論文、ビデオの審査を経て決まる。両大学は8年連続で世界大会に出場しているが、過去4位が最高。ここ数年はオランダやポルトガルなどの海外勢に押され気味だという。チームリーダーで九州工大院の筑紫彰太さん(24)は「今大会も連覇して、世界大会で優勝を目指したい」と話した。

(平塚学)



ロボットが人間の後ろをきちんと付いて歩けるように練習する長尾真志さん(手前)と佐々木政興さん。飯塚市川津の九大情報工学部

集え ロボット技術の精鋭たち

ロボカップ あすから飯塚など

ロボット技術を競う第15回ロボカップジャパンオープンが4、5日、飯塚市川津の九州工業大学情報工学部を主会場に、北九州市と新潟県を含む計3会場で開催される。海外も含む計64チーム約400人が参加する。入場無料。

競技は「サッカー」、災害救助の「レスキュー」、家庭環境での技術を競う「@ホーム」に大きく分けられ、計8種目がある。うち6種目は飯塚市で開催。中型ロボットによるサッカーは北九州市若松区の北九州学術研究都市体育館で、レス

キューロボットによる競技は新潟県柏崎市の新潟工科大学でそれぞれ開かれる。九工大情報工学部4年の長尾真志さん(21)と佐々木政興さん(21)らのチームは、「@ホーム」に出場する。歩く人間の後ろを付いて行けるか、ものをきちんと片付けられるか、といった日常生活の課題に取り組む。長尾さんは「うまくいかないこともあるが、本番までに何度も練習したい」。

佐々木さんは「初めての出場だが、1位を取りたい」と話していた。

開催委員会会長の大橋健

・九工大大学院准教授は「アニメやSFでロボットは簡単にいろんなことをやっているが、現実にはなかなか難しい。どう取り組んでいるかを見てほしい」と話す。3会場とも午前10時〜午後6時(最終日は午後4時半まで)。(垣花昌弘)